

## 再評価結果(令和7年度事業継続箇所)

担当課: 高速道路課

担当課長名: 渡邊 良一

事業名 福岡高速3号線(空港線)延伸	事業区分	都市高速道路	事業主体	福岡北九州 高速道路公社	
起終点	自: 福岡県福岡市博多区豊1丁目 至: 福岡県福岡市博多区大字下臼井			延長 1.8 km	
事業概要					
福岡高速3号線(空港線)延伸事業は、福岡市博多区内の福岡空港国内線ターミナルに最も近い「空港通ランプ」から国内線方面へ延伸する約1.8kmの自動車専用道路であり、福岡空港の機能強化にあわせ、福岡市南部地域や太宰府IC方面からの国内線ターミナルへのアクセス強化と、一般国道3号博多バイパス空港口交差点の混雑緩和を図るものである。					
R3年度事業化	R2年度都市計画決定 (年度変更)	R4年度用地着手	R5年度工事着手		
全体事業費	約533億円	事業進捗率	約22%	供用済延長 00.0km	
計画交通量	9,200台/日				
費用対効果分析 <small>(参考)</small>	B/C (事業全体)	EIRR (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体) 304 / 450 億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 605 / 605 億円	基準年
	1.3	5.6 %	(事業費: 287/433 億円)	(走行時間短縮便益: 537/537 億円)	令和7年
	2.1 [2%]		(維持管理費: 17/ 17億円)	(走行経費減少便益: 63/63 億円)	
	2.6 [1%]		(更新費: / 億円)	(交通事故減少便益: 5.6/5.6 億円)	
	(残事業)	(残事業)	感度分析		
2.0	8.9 %	(事業全体)	(残事業)		
2.9 [2%]		交通量	B/C=1.2~1.5(±10%)	交通量	B/C=1.8~2.2(±10%)
3.6 [1%]		事業費	B/C=1.3~1.4(±10%)	事業費	B/C=1.8~2.2(±10%)
		事業期間	B/C=1.3~1.4(±20%)	事業期間	B/C=1.9~2.1(±20%)
事業の効果等					
1.福岡市南部地域等からのアクセス強化 ・空港線延伸により、空港口交差点を始めとした主要渋滞箇所等を極力回避し、一般道の走行距離も大幅に減ることで、定時性が確保され、アクセス強化が期待される。					
2.空港施設の活性化支援 ・空港までの15分カバー圏域の拡大により、空港に併設される商業施設も日常的に利用しやすくなり、集客力向上が見込まれることで、空港施設の活性化が期待される。					
関係する地方公共団体等の意見					
福岡県、福岡市及び福岡都市圏広域行政推進協議会(都市圏17市町)より、早期整備に向けての要望・期待が大きい。					
事業評価監視委員会の意見					
審議の結果、事業継続。					

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・令和4年度に一般国道3号博多バイパス(下臼井～空港口)が事業化。
- ・令和6年度に福岡国際空港株式会社による空港施設設備投資等の中期事業化計画の公表。

事業の進捗状況、残事業の内容等

令和3年度に事業化、令和4年度に用地取得着手、令和5年度に支障物件移設工事に着手。  
事業進捗率約22%[令和6年度末時点]、用地進捗率約45%。[令和7年度5月末時点]  
引き続き用地取得を進めるとともに支障物件移設工事等を進めていく。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き用地買収や残工事等の事業進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

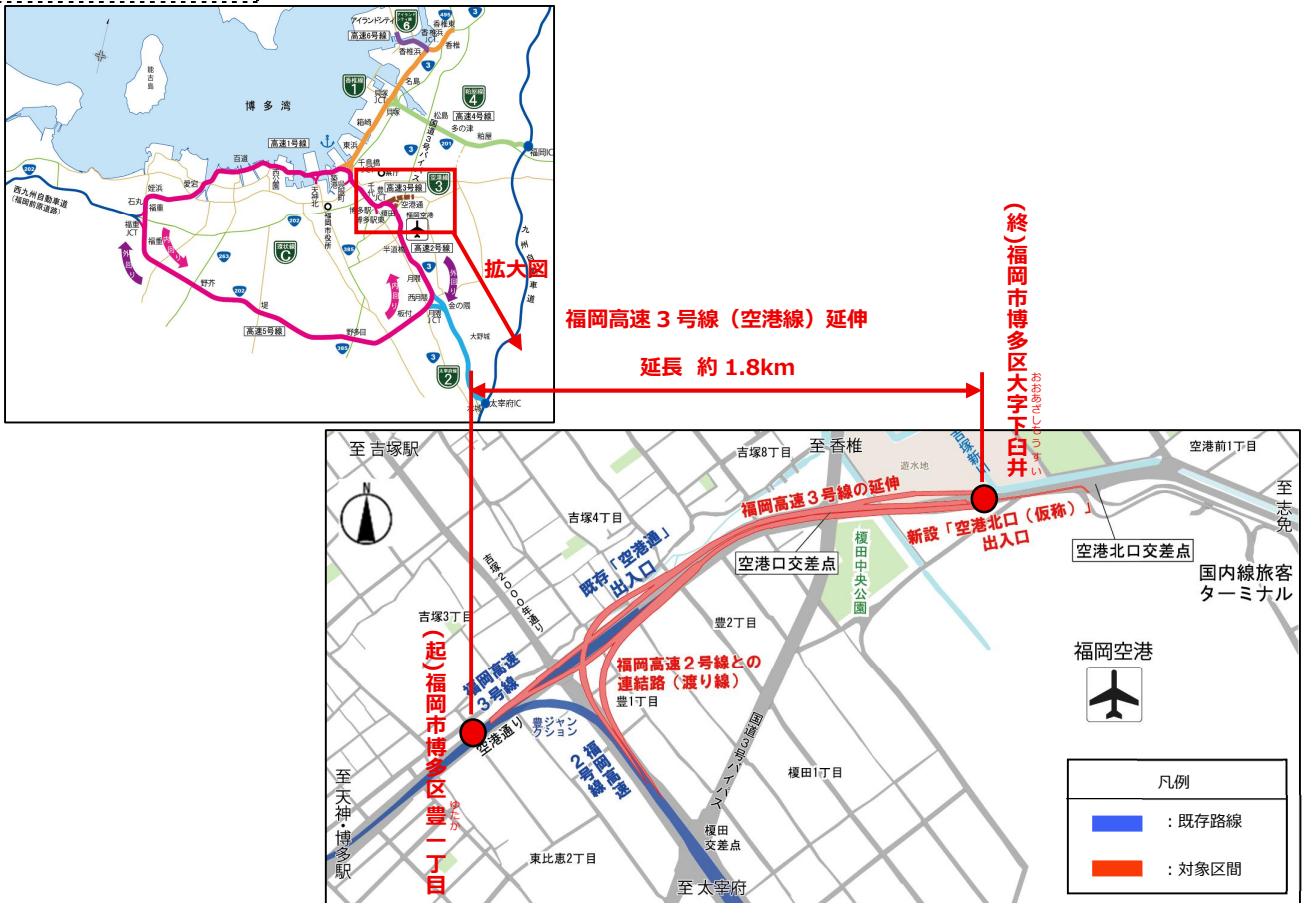
施設構造や施工等に変更はないが、新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。

対応方針

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。〔 〕内は社会的割引率の値)